

平成 16 年度第 2 回廃棄物減量等推進審議会議事録

平成 16 年 5 月 25 日（火）午後 1 時 30 分～3 時 30 分

市役所 5 階全員協議会室

出席委員 坂崎会長、寺尾委員、竹本委員、山谷委員、加藤委員、梶田委員、硯見委員、
土本委員

欠席委員 関谷副会長、坂田委員、藤浪委員、渡辺委員、吉川委員

司 会 過去 2 回の審議内容を事務局で整理してもらった。行政と市民の役割分担から、
ごみ処理費用負担のあり方についてどう思われるか。

委 員 基本料金と従量料金という考え方は説得しやすい。搬入料金も変わるのか。

事務局 ごみ処理料金ということなのであわせて変える。

委 員 税金が浮いた分を福祉に充てるという説明があったが、前年度と比較対比をして
示したらよいのでは。

事務局 ルールとして、税を投入しなくてすむ分を福祉に投入するということはできない
が、それに近い資料をつくることはできると思う。

委 員 税の還元は難しいだろうが、出した量に応じて負担することがごみ減量につなが
る。ごみ処理料金を税金と見れば結果として税が増えたことになる。市民側から
みて、個人負担をすることで“助け合いの精神”ということになればよい。公共
料金の考え方からすれば応分の負担はやむをえない。ゴミ処理にかかる世帯あた
りの実費負担額は 1 月あたり 1,270 円になり、電気 9,700 円、ガス 6,500 円、水
道 4,756 円などと比べて決して高くない。市民に理解してもらうことが必要。ド
イツではごみ処理費をその徴収料金でまかなっていたり、スウェーデンでいえば
税金が高かったりする。ところで従量料金と基本料金の設定根拠はどのようか。

事務局 根拠は難しい。施設整備にかかる費用を乗せるかどうかもある。

委 員 18 円が倍に上がることへの抵抗は大きい。きちんとした説明が必要。

事務局 ごみを 1 / 2 にすれば負担はこれまでと同じになる。2 3 分別と生ごみ処理機補
助制度がなければごみを減らす方法がないが、受け皿はあるのでやり方次第でか
なり減らすことは可能。状況は平成 9 年の有料化の時とは違う。

委 員 努力している人には、これ以上何を減らすのかという反発がある。

事務局 努力している人には、値上げは得になる。

委 員 段階的に理解を求めてほしい。

事務局 組成調査結果をトータルで見ればまだがんばる（減量する）余地は残されている。

委 員 がんばっている人にとって、値上げは納得できると思う。

委 員 昭和 30～40 年ごろまで水と安全はタダだったが、今は非常にお金がかかるよう
になった。ごみもタダという考え方には無理がある。現状がいくらかかっているか
を理解しているかがポイントでは。また、環境税をゴミ袋に上乗せして環境活動

団体の助成などをしてはどうか。

事務局 現在も基金に積み立てて集団資源回収の助成事業などにも充てている。条例に盛り込むことも検討したい。

事務局 市と市民団体の関係はここ 5 年くらいで変わってきており、特定の団体に補助金は出せなくなった。ゴミ袋に 1 円上乗せして特定財源にするという考え方は、矢作川の上流の水源を守るという豊田市の水道料金の例もあり可能だと思うが、税という考え方は検討しないといけない。

委員 福祉より環境の事業に充当した方がよいのではないか。

委員 ごみは出した人が負担するのが当然。どれだけ上がるかが問題だ。

事務局 今の 18 円という値段は、一般市民にはごみ処理にかかるサービス料金でなく、袋代であると認識している場合が多いようだ。

委員 市民レベルではほとんどそうだ。

事務局 値上げすれば、袋にその旨をわかりやすく表示をしたいと考えている。

委員 一方で受益者負担をしているという認識もある。

委員 ごみの処理を税で負担していることをきちんと市民に理解してもらわないといけない。

委員 電気や水道の基本料金は税金でまかなっていない。ごみも税金で負担する必要はない。理解を求める方法として、福祉にその分を使ったらこんなことができるという例（老人ホームがいくつできる等）を示したらどうか。

司会 理解を求める方法を市の方で示していただくようお願いする。

事務局 きちんと取りまとめ、整理をする。

司会 次に循環型社会シンポジウムの開催について説明を。

事務局 別紙のとおり 6 月 26 日に開催し、ゴミ袋の値上げについて市民に討論してもらうので、委員の皆さんもできるだけ参加いただきたい。

司会 では、生ごみ施設の視察について説明を。

事務局 生ごみのリサイクルについて視察をしたいというご意見もあつたので、来月下旬京都市のバイオガス化技術実証研究プラントへ視察をお願いした。
委員の皆さんのご都合により 6 月 29 日（火）に計画する。